



発行所
 日本聖公会 東北教区
 仙台市青葉区国分町2-13-15
 TEL 022-223-2349
 FAX 022-223-2387
 URL <https://nssk-tohoku.com/>

シリーズ「東北の信徒への手紙」
目標を目指して競争する

司祭 パウロ 渡部 拓



私はこの原稿を9月に執筆しているのですが、この時期になると自分がチャプレンとして携わる幼稚園で、次々と運動会が開催されます。そしてこの時期になると私はいつも「競走」することについて思いを巡らせてしまいます。今回はそんな「競走」ということについて考えてみたいと思います。

さて競走という言葉は、言うまでも無く足の速さを比べて優劣や序列を付けていくことが原意としてあります。それは当然なのですが、実は聖

書において登場するこの「競走」という言葉を、ギリシャ語から見てみますと、前述の意味だけではないことが分かってくるのです。中でもヘブライ人への手紙12章1節の「自分に定められている競走を忍耐強く走り抜こうではありませんか。」と訳されているところの「競走」という言葉は、実はテモテへの手紙16章12節において「信仰の闘いを立派に闘い抜いて……」という箇所「闘い抜く」という言葉と同じものであるのです。

つまり聖書における「競走」というものは、単純な順位付けや走るという意味にとどまらずに、目標に向かって「闘う」ことを要求される教えであると言えるのです。そしてこの「闘う」と訳された言葉もとても大切です。何故ならこの言葉「戦う」ではないの

です。今度はこの「闘う」という言葉を日本語の辞典で調べてみますと、もちろん「自分と意見や思想の違う相手と闘う」といった意味も出てくるのですが、その他に「自分に課されている苦難や障害を乗り越えようとする」という意味も出てくるのです。

何やらギリシャ語やら日本語やら行ったり来たりと、無理矢理にも思えてきますが、しかしこれらのことをまとめると、聖書が私たちに求める「競走」の意味、その一つが見えてきます。それは「競走とは誰かと争うことではなく、ひたすらに目標に向かって自分に課せられた苦難や障害を乗り越えていくことである」ということです。また同時にこれらの「競走」という言葉が、聖書という教会共同体に、いや人類に向けて書かれている書物にある言葉と捉えるならば、聖書を読んで信じる全ての人が同じ目標に向かって「競走し、闘う」ことを求められているものであると考えられることが出来るでしょう。

最後に、それではここで言うところの競走とその目標と

は何かといえば、それは当然「信仰の導き手であり、完成者であるイエスを見つめながら」(ヘブライ人への手紙12章2節) 走るということであり、その私たちが見つめるイエスさまが目指している「全人類が愛され、大切にされる神の国」を完成させるという大事業が目標であるのです。

その目標のために、私たちはそれぞれに定められている競走を走り、時に訪れる困難や障害をお互いに協力し合いながら「闘い」進んで行く教会共同体であるということ、

「競走」という言葉は教えてくれているのです。

この原稿が世に出る頃には、教区としても教区会を迎え、教会や個人としてもクリスマスや新しい年の始まりを意識しだす時期であると思います。そのような時期だからこそ、それぞれの場所で今定められている競走は何か、目標は何かを見つめ直し、どうすればそこに向かって走ることが出来るのか、闘うことが出来るのかを、改めて皆で一緒に折り求めていきましょう。

(秋田聖救主教会牧師)

大韓聖公会大田教区主教按手式

司祭 ドミニコ 李 贊熙



去る2023年9月23日大

韓聖公会大田教区第8代テト
ス金鎬旭(キム・ホウク)主
教按手式と着座式が天安にあ
る国立中央青少年修練院で行
われました。

2005年から始まった大
韓聖公会大田教区との宣教協
働関係にある東北教区からは
教区主教長谷川清純主教と李
贊熙司祭が参列しました。

主教按手式前日には日本聖
公会から参列した主教、イン
ド洋聖公会ジエームス・リ
チャード大主教、西アフリカ
聖公会シリル大主教、イギリ

スからコリアンミッション担
当マーク・ウィリアム司祭、
大韓聖公会歴代主教、大田教
区全聖職者など約120名が
参加したレセプションが開か
れました。レセプションでは
北朝鮮から脱出した人たちが
結成した「ジーオン芸術団」
の公演とテナー歌手の公演が
ありました。続いて祝福の言
葉、被選主教の挨拶、最後に
は長谷川清純主教の祝福があ
りました。

9月23日(土)午前10時30分
から天安国立中央青少年修練
院大ホールで「あなたの家を
思う熱意がわたしを食い尽く
す」(ヨハネ2:17)という
聖句を新主教の指針として大
韓聖公会大田教区第8代テト
ス金鎬旭(キム・ホウク)主
教按手式と着座式礼拝が捧げ
られました。

今回主教按手式と着座式に
は日本聖公会主教、カンタベ
リー大主教特使、大韓聖公会
歴代主教や大韓聖公会退職司

祭、各教会の信徒など100
0人以上が参列しました。

主教按手式は大韓聖公会議
長主教イ・ギョンホ主教(ソ
ウル教区)司式、釜山教区パ
ク・ドンシン主教推薦で行わ
れました。説教はタンザニア
聖公会マイムボ・ウムドルワ
大主教が務められました。

主教按手式の中で一番印象
的な場面は、教区主教着座後
新主教と大田教区全聖職団が
一緒に「派遣の歌」を歌いな
がら教区聖職団の一致を神様
の前で、また参列しているす
べての人々の前で表明した場
面でした。

テトス金鎬旭(キム・ホウ
ク)主教は1967年生まれ。
アサン「牙山」ダウンポ教会
出身、聖公会神学院卒業、チヨ
ナン「天安」ポンミョンドン
教会、ウンソンウプ「陰城邑」
教会、ジンチョンウプ「鎮川
邑」教会などを牧会しました。



大韓聖公会大田教区
金鎬旭新主教

常置委員会報告

(第12回・9月25日)

報告事項▼主教報告・主教動

静と今後の予定について報告。

▼常置委員長報告・チーム北

国を円滑に機能させるために、

「宣教協働」「広報」「組織」「財

政」の4つのセクションを設

け、メンバーが確定。

▼主事会議報告・2024年

度の執行機関拡大合同会議を

1月20日(土)に実施予定。

協議事項▼秋田豪雨被害状況

報告を共有、宣教協議会参加

メンバーについて、李司祭がご

家族の事情で参加が出来なく

なったため、八木司祭を代替参

加メンバーとすることを決定。

▼規則・規程の改正について

「主教座聖堂規程」、「宗教法人

「日本聖公会東北教区」規則」、

「業務組織および業務分掌規

程」、「経理規程」について規

則・規程グループより示され

た案を元に協議し一部修正し

て承認。▼第108(定期)教

区会で想定される内容と常置

委員会(関連)で準備する報告

議案、研修等について確認を

行い、次回常置委員会ですら

に協議を結めることを確認。



東北教区のみならず、こ
んには。東北教区・北海道教
区宣教協働の取組みのひとつ
として「お互いの教区にどん
な教会があるのか知りたい」
という声にこたえるため、東
北の教区報には北海道の教会
を、北海道の教区報には東北
の教会を紹介する記事を連載
することになりました。次号
から順次、各教会の紹介記事
を掲載していく予定です。

日本の国土の約2割を占め
る北海道の全域をカバーする
北海道教区には、21の教会と
2つの伝道所、4つの保育園
と5つの幼稚園があります。
札幌から一番遠いのは356
キロ離れた厚岸の伝道所です。
現任の聖職は、9名の司祭、
1名の執事、笹森田鶴主教は
2022年4月に着座されま
した。主教座聖堂と教区事務
所は別の場所にあります。が、
いずれも北海道大学に接して
います。
クララ 吉谷 かおる
(北海道教区報「北海の光」編集委員)



興味のある話題に分かれての

8月31日(木)～9月3日(日) 「日本聖公会2023 全国青年大会 in TOKYO」に参加して 仙台聖フランシス教会 千葉 剛史

今回の青年大会は「わたしたちは、誰と一緒に、食卓を囲み、どのように歩むのか」をテーマに行われ、オランダではなく、直接集まること、が如何に恵まれたことかを感じることで、できた4日間でした。

大会の日程の中では、主様のお話を聞いてのグループシェアリング、自分の

グループシェアリング、聖書の言葉について話し合うバイブルシェアリングなど、仲間と話し合い考えを深める機会が多く取られました。これらの中で私が最も関心を持ったものは、「自分にとって洗礼とは何か」というテーマについて考える話し合いでした。このテーマに対して興味を持ったのは、私の中では洗礼が大きな儀式的意味を持っていると漠然と思っていたことにより、洗礼を受けていない身で大会に参加しても良いのか、という迷いがあったからです。実際に洗礼を受けた方の話を聞いた今回は、非常に貴重な体験となり、自身の教会への向き合い方を改めて考えることができました。



と感じました。大会中最も盛り上がったのは、マニットという企画です。これは大会中にくじで決められた相手を、その相手に気づかれないようにサポートをするというもので、3日目の夜に答え合わせをしました。大会で初めて会う人が多く、〇〇さんに優しくしてもらった」と言葉が飛び交い、とても温かい気持ちになりました。

私が全国青年大会に参加して何より嬉しかったことは、自分と同世代の青年たちと顔を合わせ、同じ時間を過ごすことができたことです。この新しい出会いを大切にしたいと思いました。

大田教区内外から信徒、教役者、シスターら大勢が参列されて、講堂の900席は満席で総勢おおよそ一千人が感謝と賛美に満ちて、大きな喜びを持って礼拝が献げられました。私は本当に素晴らしい

主教コラム



9月23日、韓国国立中央青年修練院講堂でテトス・キム・ホウク(金鎬旭)師の主教按手式

が執り行われ、師は第8代大田教区主教に就任されました。式にはフィリピン聖公会、南アフリカ聖公会、インド洋管区、東アジア聖公会協議会、カンタベリー大主教特使など海外からの主教たちも多く参列、日本聖公会からは笹森主教、高橋主教、高地主教、小林主教、矢萩管区総主事、私と李司祭が参列しました。タンザニア聖公会のマインボ・ムドラワ主座主教が説教され、米國聖公会総裁主教マイケル・カリー師からはお祝いのメッセージが寄せられ朗読披露されました。

大田教区内外から信徒、教役者、シスターら大勢が参列されて、講堂の900席は満席で総勢おおよそ一千人が感謝と賛美に満ちて、大きな喜びを持って礼拝が献げられました。私は本当に素晴らしい

時を共有していることを実感し、感謝しました。あの熱気信仰の高揚感をそのまま皆さまでに伝えられるものではありませんが、主教按手式はやはり特別で格別な礼拝だと改めて思わされました。

綿密なりハールがなされたよう、礼拝は滞りなく進行了ました。陪餐後、教区主教着座、全教役者が新主教の前に立ち従順の誓いを交わし、それから全員で会衆に向けて聖歌を奉唱しました。会衆はうっとり聞き入って、歌い終わると大歓声と拍手に包まれました。信徒たちと教役者たちが一体感に溢れ、一致した瞬間でも印象深いシーンでした。私は、わずか4カ月前に主教按手されたばかりですが、早くも心新たにされた感でした。今後とも大田教区との祈りの交わりを深めてまいりたいと存じます。現在大田主教座教会は改築中で工事はやや遅れ気味ですが、来年4月には完成予定です。その際には、東北教区から是非お祝いに駆け付けたいと思います。

(教区主教)



室根聖ナタニエル伝道所

9月9日に遅ればせながら室根山麓施設活用プロジェクトの初めての会議を伝道所で行いました。今春から居住者が出入されたこともあり、管理が行き届いていない状況は否めません。新たな教区の研修施設として使用していくためには、まずは徹底した掃除から始めることにしました。来年4月13日(土)から14日(日)の日程で「室根クリーンフェスティバル」(仮称)を計画し、これから準備を進めてまいります。(管理司祭)

大館聖パウロ教会

8月20日、長い間闘病中のコルネリオ佐々木一さん(82歳)が天に召されました。これまで教会でのお働きに感謝し、天国での魂の平安を祈りました。

10月22日、大館幼稚園のバ

ザーが開催されます。教会コーナーが設けられ、参加のため準備に追われています。10月29日、4年振りに市内5つの教会による合同礼拝が行われます。教派を越えた貴重な祈りの時を共有し合い、有志で参加します。

聖ペテロ伝道所

ペテロ伝道所の庭には季節によって様々なお花が咲き、聖餐式にお届けします。開所時からのモミの木も見上げるほどに成長し、隣家に枝が及ぶまでになりました。庭の中心にある育ち過ぎた桂の木も伐採することになり、切り株が残るのみとなりました。夏の間に伸びた草も刈られ、広々と見晴らしが良くなりました。作業が無事に終わり、感謝です。特別に暑い夏が終わり、季節外れのムクゲが満開です。

東日本大震災被災者 支援プロジェクト報告

◇9月15日(金)に「メモリアル広畑お茶会」(記念会)を実施しました。懐かしい方々

6名、スタッフ7名、計13名で行われました。残念ながら急なご都合で欠席された方もありこの人数となりましたが、久しぶりに集まった皆さんはお元気で、抹茶をいただきながらお話を花が咲き、お得意の昭和ソングを歌い、また軽い体操で体をほぐして大いに盛り上がりました。また来年お逢いすることにしてお別れしました。

◇9月20日(水)の水曜喫茶支援は、スタッフを含め7名の参加でした。皆さんお変わりなくお元気です。(リーダー 浅原 和裕)

◇11月26日は「人権活動を支える主日」です。人権を守るための様々な活動を覚えて祈り、献金をお届けください。

永遠の平安

コルネリオ 佐々木 一
(8月20日・大館)



2023年 日本聖公会 宣教協議会

「いのち、尊厳限りないもの～となりびととなるために～」

11年ぶりの宣教協議会がいよいよ11月10～13日に開催され、東北教区からは11名が参加いたします。当日はプログラムの配信が行われますので、ぜひご覧ください。詳しくは宣教協議会ブログをご確認ください。



11月逝去者記念聖餐式
11月1日(水) 午前10時
於 主教座聖堂
司式・説教 長谷川清純 主教

- 主教 ライト前川 眞二郎
- 1953年11月1日逝去
- 宣教師 Miss Bessie McKim
- 1973年11月5日逝去
- 司祭 西村 敬太郎
- 1971年11月7日逝去
- 司祭 マルコ植松 金蔵
- 1975年11月7日逝去
- 伝道師 松下 一郎
- 1918年11月10日逝去
- 司祭 大野 要蔵
- 1938年11月11日逝去

- 司祭 ヨハネ伴 君保
- 1956年11月11日逝去
- 司祭 ガブリエル 稲沢 忠信
- 1988年11月12日逝去
- 司祭 今井 献
- 2007年11月27日逝去
- 伝道師 白石 村治
- 1929年11月28日逝去
- 女執事 Miss Anna Love Ranson
- 1969年11月28日逝去

訃報

退職聖職・司祭 ヨハネ 小野俊作師は、9月28日、逝去されました(89歳)。同師の魂の平安をお祈りいたします。